

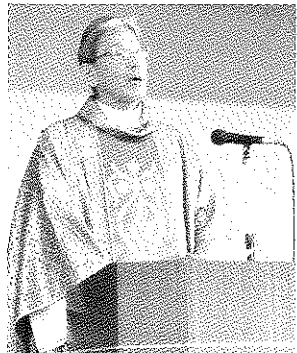
岐部祭

国見生涯学習センター「みんなんかん」(大分県国見町)で7月2日、4年ぶりに岐部祭が開催されました。例年午前中の開催でしたが、今年は諸事情により午後開催になりましたので、教区本部と県北ブロックで、当日の朝8時半より準備を始めました。朝早くから本場にありがとうございました。

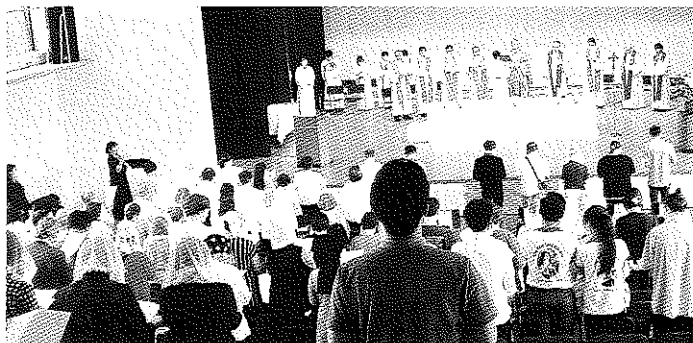
13時から、坂本要神父様の講演「徳川幕府による1614年の禁教令公布に至る背景」がありました。初めて知ることが多かったです。

話を聞きながら、そんな厳しい状況の日本に帰ってきた。ペトロ岐部かすい神父様の人生について、色々思いを馳せました。講演後、森山信三司教様司式でミサが捧げられました。

午後開催ということもあってか、参加者は例年の3分の1くらいでしたが、コロナ禍を経ての岐部祭でしたので、開催できただけでもありがたいことですし、何より、森山司教様の司教叙階1周年を、教区全体で祝うことができて、とてもうれしかったです。私事ですが、カトリックとは無



説教をする森山司教様



森山信三司教様司式ミサにあずかる参加者たち

縁と思っていたこの国見の地に引越してきてから22年になります。引越してきてからすぐに、岐部神父様の子孫にあたられる故岐部増喜さん一家が国見町におられることを知り、国見町がカトリックと無縁どころか、歴史ある町であったことを知りました。その国見町に、大勢のカトリック信者と神父様方。また、カトリックではない地元の人々が集まる岐部祭のたびに、私は感動で胸がいっぱいになります。

国東市には、1年に1回「ふるさと国東の偉人伝ポスター・読書感想文コンクール」というのがあります。国東市内全ての小中学校が取り組むのですが、多くの偉人の中でも、岐部神父様に関する作品を扱う子どもたちがとても多いです。カトリックの子どもは、我が子以外は多分いないのですが、感想文の内容や描

かれた絵をみると、自分の信念のために命を捧げたペトロ岐部神父様の生き方や考え方について深く考えているものばかりです。国東の子どもたちが、ペトロ岐部神父様のことを、郷土の誇りに思っているのだということがよくわかります。宗教に関係なく、たくさんの人々に影響を与え続けるペトロ岐部神父様。さすが福者!!と思わずにはおられません。年に1度、国見町がカトリック色に染まるこの岐部祭が、これからもずっと開催されますように。皆さん、来年は今年以上のご参加をお待ちしています。

最後になりましたが、豊後高田教会は高齢化が進み、草刈り作業などができるのは、岐部さんの家族と私の家族だけとなりました。そんな中、岐部公園が美しい状態を維持できているのは、毎日公園の管理をして下さっている岐部さん一家のおかげであり、また草刈り作業の際に、遠方から参加して下さい、たくさんの方々のおかげです。いつも本当にありがとうございます。これからも、どうかよろしくお願いします。

長谷川はるえ

(豊後高田教会信徒)



講演をする坂本要神父様